ひょうご企業探訪 ⑥

2019学生が聞く

街を楽しみ宿泊、播磨で模索

三晃商事（大阪市北区）
吉井 祥二常務（47）

播磨地域で半世紀以上、旅館業を営む。5年前に京都に進出。今春には、赤穂市で古民家を改築した新旅館を開業した。若年層の旅館離れが叫ばれる中、地域と連携した宿泊施設の在り方を模索する。関西学院大の西本章宏准教授のゼミ生が吉井祥二常務を訪ねた。

―旅館業界の現状は。

「人口減などの影響で、国内の旅行需要は縮小しています。訪日外国人客は増えていますが、播磨に宿泊する人は少ない。若年層の旅館離れも顕著です。情報発信の強化、価値観の不一致を解消してサービス内容を見直すことが課題です」

―客のニーズの変化にどう対応してきたか。

「姫路市夢前町出身の祖父が56年前、塩田温泉で旅館『夢乃井』を始めました。団体客を集めて売り上げを伸ばしましたが、約20年前から会社単位などでの利用が減り、個人客中心に。そこで夢乃井の一角にハイクラス旅館『夕やけこやけ』を建てました。全17室に露天風呂を完備し、利用は1室2人限定。ゆっくりしてもらえます」

―5月、赤穂に「加里屋旅館Q」を開業した。

吉井祥二常務（右）に話を聞く関西学院大3年の峯島基さん＝赤穂市加里屋

空き家だった古民家を再生した「加里屋旅館Q」＝赤穂市加里屋

「町家を改装した新コンセプトの旅館です。客室は和風ですが新しさも感じられ、居心地の良さを追求しました。ただ決して広くはなく、温泉もない。食事は原則として朝食のみとし、宿泊客には外に出掛けることを勧めています。街の歴史や人に触れ、食を楽しんでほしい。その分、宿泊料金を下げています」

―新ブランド「Q」の戦略は。

「地域を紹介し、地域と連携して、旅館で過ごす一夜の魅力を最大化することを目的にしています。宍粟市でも1軒開業します。古民家の再生を通じ、新しいビジネスモデルを構築したいですね」

（まとめ・三島大一郎）

メモ

1954年、大阪で創業。飲食業を経て、63年に旅館「夢乃井」開業。社員数270人。2019年2月期の売上高は19億6400万円。今春は13人採用。次年度も同程度を予定。大阪市北区中崎1の5の28。

エムラボ

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。